JNSA PRESS

JAPAN NETWORK SECURITY ASSOCIATION

AUTUMN 2016 VOL.42

寄稿

人工知能によるサイバー戦争到来

CONTENTS

特定非営利活動法人
日本ネットワークセキュリティ協会
NPO Japan Network Security Association

健康的なセキュリティ

JNSA 理事
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
土屋　茂樹

長い間、セキュリティに関する事故がとどまることを知らない。本来実施すべき対策が不十分で事故につながってしまうものはもちろんのこと、一見最新の対策を講じたとしても、すぐにその対策を潜り抜けるような脅威が発生し、防御システムはいとも簡単に突破されてしまう。セキュリティは対策と脅威が常にイタチごっこであり、どうにかならないものかと考えることもある。

このイタチごっこの関係は、コンピュータウィルスという名前があるくらい、生物とウィルスの関係にとても似ていると感じている。ウィルスが細胞膜の中にちゃっかりと入り込むときのなりすましの技は天下一品である。どのように免疫機能が防御しようとも、あらゆる手を使ってその裏をかいてくるのである。またあまりウィルスの毒性が強すぎる場合、徐々に毒性を減らしていき、より長期間宿主で延命できるように変異していったりもする。さらには、ウィルスが寄生主の中に入り込み、結果的に寄生主の遺伝子の一部となって、新たな生命体となることもある。敵のソースコードの採用である。

結局、ウィルスは生物と同じくらい大昔から存在したし、何億年もの戦いや共生等の歴史を通じて現在にいたっており、依然としてウィルスと生物は両者とも存在している。情報セキュリティの世界にあってもイタチごっこは終わらないのではないか、と思うのである。

一方で、守られている側である、内部の組織・システム自身も強靱になっていく必要がある。これまで以上に組織構成はグローバル化などで複雑化し、システムは社内社外と接続先を伸ばし、アーキテクチャも多様化している。戦線は拡大の一方であり、攻撃側もさらにレベルを上げている中で、内部を防ぎきるのはほぼ現実的ではなくなっている。作りっぱなしになっているかもしれないリスク分析シートや、災害復旧計画（DRP）、事業継続計画（BCP）を再度ひも解いて、性悪説に基づいたセキュリティ設計をやり直してみる、等のアクションも必要なのではないかと思う。

我々が目指すべき姿は、少しくらいのウィルスが来ても大丈夫な、健康な体である。健康でいるためには、免疫力を高めると同時に、バランスよく栄養価の高い食事をとったり、定期的に運動したりといった努力が必要である。セキュリティの観点においても、組織やシステムが「健康である」ための地味な努力が欠かせない。地味な努力をいかに継続的に実施できるかが、結果的には「急がば回れ」ではないだろうか。

人工知能によるサイバー戦争到来

日商エレクトロニクス株式会社
ネットワーク＆セキュリティ事業本部 セキュリティ事業部
スペシャリスト　市川　隆一

1. 開かれた扉

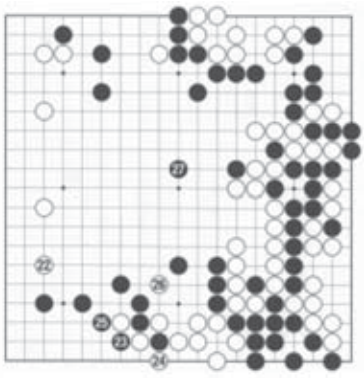
コンピュータが書いた小説が文学賞選考を通過し、有名画家の作風を我が物にした別のコンピュータは同氏の作品と見違えるほどの絵を描きだす――コンピュータが遂に創造世界への扉を開いたのです。そして２０１６年3月９日、囲碁界に激震が走ります。震源地は韓国ソウル鍾路区（チョンノグ）。グーグル社の傘下にあるベンチャー企業、ディープ マインド社が開発した「アルファ碁」が、世界最強棋士のひとりと名高いイ・セドル九段に完勝したのです。これまでコンピュータはチェスや将棋の世界を席巻しつつありましたが、誰もがまだ高を括っていました。そのゲームの複雑さから碁のトップ棋士に勝つのはまだまだ先と信じられていたからです。ところがこの「最後の砦」をもコンピュータはあっさりと制したのでした。しかもその勝ち方は凄まじく、これまで人間の世界では悪手とされていた手を悠然と放ち、中央へ向かう勢力を築き、その勢力を背景にした攻めの新手を次々と創出して勝利したのです。念の為に繰り返しますが、相手は世界最強のプロ棋士です。コンピュータは人間がプログラムした命令通りに、超高速で繰り返し実行することが得意であることは言うまでもありませんが人工知能により自分で学習する能力を身に着けた時、これまで想像だにしなかったことが次々と起こり得ることを思い知らされた瞬間でした。

2. 自己学習を纏い、創造の世界へ

人間は生命を維持するために休息や睡眠を必要とします。ところがコンピュータは電力と適度な環境があれば休むこともなければ眠ることもなく凄まじい速度で働き続けます。人工知能を有したコンピュータ同士が碁の対局をすれば、人間が一生かけて行う数を僅かな期間でやってのけてしまいます。疲れを知らない人工知能同士がお互いに経験を重ね、学習し合うことで、人間のそれとは桁違いの学習効果を出せるのです。碁の世界において筆者が「創造」という言葉を聞いた時、弘化3年7月21日（1846年9月11日）に、当時18歳の本因坊秀策（しゅうさく）が十一世因碩（いんせき）との対局で127手目に放った一手が思い浮かびます。この手を見た因碩の耳がみるみる赤くなったことから、「耳赤の一手」として語り継がれていますが、一石三鳥とも言われるこの妙手はその威力もさることながら美しささえ感じられます（碁をご存じない方でも、なんとも言えぬ美しさを少しでも感じていただけると幸いです）。このような創造は神を除けば人間の領域だと思われていましたが、コンピュータが高速処理を活かした自己学習を身に着けることによって、この領域への仲間入りを果たしたのです。

図1：耳赤の一手（中央黒（127手目））

本因坊秀策
(1829-1862)



｜　上辺の自陣（黒陣地）を広げる
｜　下方の弱い黒石へ援軍を送る
｜　左辺敵陣（白陣）侵略の足掛かりを作る
という一石三鳥の妙手

自己学習によって創造力を身に着けた人工知能は
どのような手を放つのか？

出展：『本因坊秀策囲碁記念館』
http://honinbo.shusaku.in/index.html

3. 人工知能によるサイバー戦争

小説や絵画、そして碁などの芸術世界への人工知能の仲間入りは、芸術の新たなる時代の幕開けを予感させ心躍りますが、サイバー戦争への仲間入りとなりますと手放しでは喜べないでしょう。碁盤をサイバー空間に置き換えた瞬間に、きな臭い匂いが漂ってきます。サイバー空間は、陸・海・空、宇宙に続き第5の戦場と言われています。軍事施設だけでなく、通信、エネルギー、運輸、金融などは国の存続にかかわる重要な機関であり、それらはコンピュータの制御なくして機能しません。つまり恰好のサイバー攻撃目標になるのです（米国では2001年9月の同時多発テロ事件をうけ、2003年12月17日に当時のブッシュ政権は大統領令で、重要インフラ（Critical Infrastructure）を定義して、対策に取り組み続けています）。複数の人工知能がお互いに攻撃、防御を繰り返し行うことができる「サイバー訓練場」があれば、人工知能は自己学習を繰り返し、効果的な攻撃手法や防御手法を自ら創造していくことでしょう。最強の矛と盾を人工知能が自ら開発していくのです。

表1：自己学習するための訓練場

（碁の場合）

戦場	碁盤（19x19の交点）
目的	相手よりも多くの陣地を囲う
ルール	二人で対局し、白石と黒石を交互に石が置かれていない交点に打つ
	相手の石を囲むと取ることができる（碁盤から取り除く）
	上下左右全てに石が置かれている場所には打てない（打つことで、相手の石が取れる場合を除く）
	永久ループ回避や例外（コウ、セキ、隅の曲がり四目等）
既知情報	棋譜、定石集等

（サイバー戦争の場合）

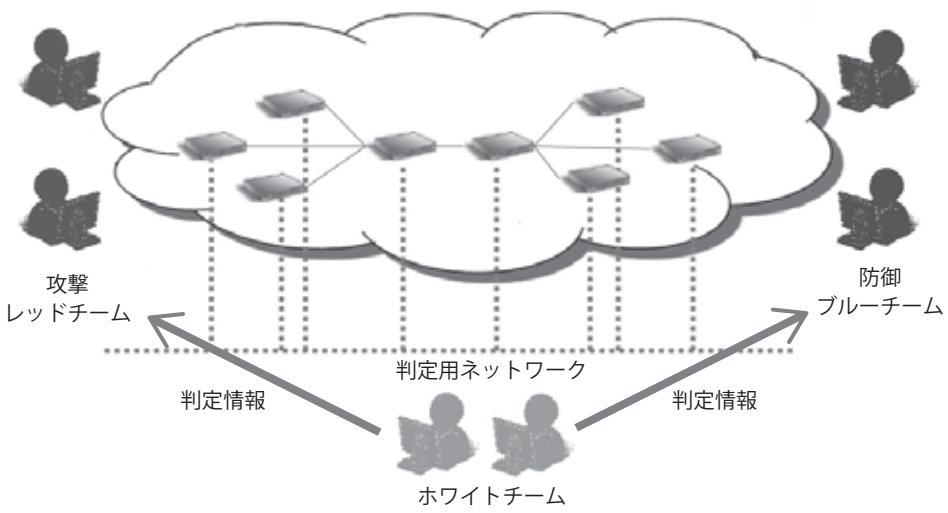
戦場	サイバー空間（情報ネットワークと制御ネットワーク）
目的	相手の機密情報を搾取、制御機器を不全にする等
ルール	不特定多数で行い、相手に攻撃者の正体がバレないようにする
	地球環境に著しい悪影響を及ぼさない
	無限ループに陥らないような調整等
既知情報	既知の攻撃・防御手法、事故事例等

訓練用にサイバー空間を用意することは簡単ではなさそうに思われるかもしれません。しかし既に人間の世界では大小の差こそあれ、訓練用サイバー空間を用意し、サイバー人材育成を目的とした演習が行われてきています。2013年に経済産業省による電力・ガス・ビル・化学分野のサイバーセキュリティ演習が実施され、2014年には某大学によるサイバー空間シミュレータを使用した攻撃演習など数多くのサイバー訓練場を用いた演習が行われています。今後は人間だけではなく人工知能が訓練場を利用し、人工知能サイバー戦士を育成すればよいのです。米国は国防のために大規模な訓練環境を作る国ですので、サイバー戦争を想定した大規模なサイバー空間シミュレーションが既に開発され、人工知能が日々訓練に勤しんでいるかもしれません。

4. ホワイトチームが重要な鍵

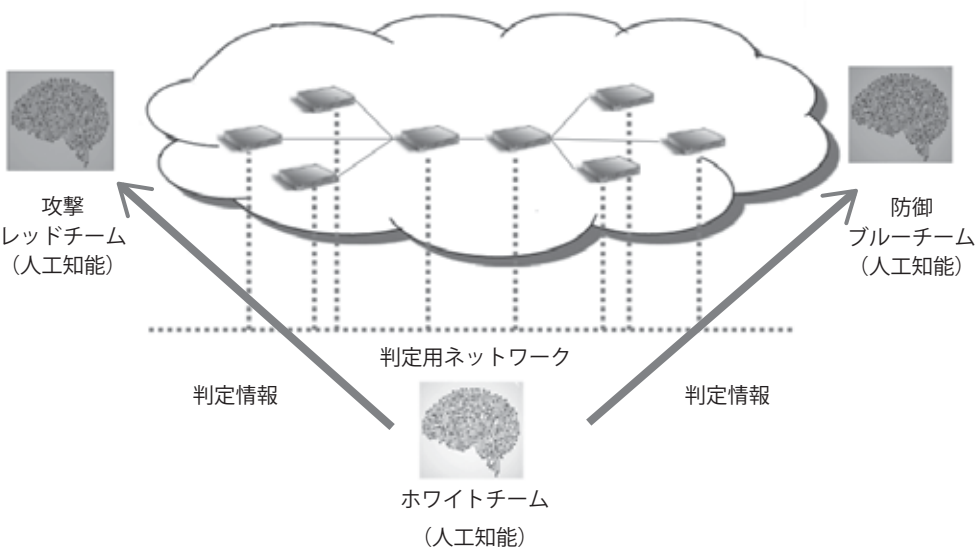
人材育成のためのサイバー訓練の場合、登場人物として攻撃者（レッドチーム）と防御者（ブルーチーム）の他に攻撃・防御の効果を測る判定者（ホワイトチーム）が必要になります。演習者が自己学習によりスキルを向上させていくためには、ホワイトチームからの適切な判定情報が必要不可欠であり、ホワイトチームの能力が訓練を成功させるための重要な鍵になります。レッドチームが放った攻撃が功を奏したと思い込んでいても、実際にはブルーチームが仕掛けたハニーポットの中で弄ばれているだけかもしれません。ブルーチームが感染ノードを早期発見し、遮断等により攻撃を無効化できたと満足していても、その遮断したノードはレッドチームが仕掛けた囮かもしれません。ホワイトチームから一連の攻撃または防御が完了した時点で適切な判定情報を得ることで、演習者は攻撃または防御の成果（成功・失敗）を理解し、次の対策を講じるといった学習を繰り返すことができるのです。

図2：人材育成のためのサイバー訓練場



演習者が人間から人工知能に置き換わった場合もホワイトチームから提供される判定情報は非常に重要です。人工知能はお互いに超高速で攻撃と防御を行うため、ホワイトチームもその速度に適応するために人工知能が担うことになります。ディープラーニングによる特徴認識力と自己学習により人工知能は凄まじい勢いで日々進化しており、人工知能によるホワイトチームもそう遠くない未来に登場するでしょう。人間は未知のモノを見聞きした時、知らず知らずのうちに過去の経験から類似したものを探したり、ある決められた条件を満たしているか否かを確認したりします。大きく綺麗な羽を持つ未知の昆虫を見れば蝶の一種ではないかと類推したり、鱗で覆われ肺呼吸をし、卵を産む変温動物などの条件を満たしていれば爬虫類だと推断したりというふうに無意識に帰納法と演繹法を使うことが多いのです。人工知能はディープラーニングによる優れた特徴認識力を身に纏い未知の入力から必要な出力を得るために、教師付き（予め教えられた入出力ペアを基に自己判別力を向上させながら答えを導き出す）や教師無し（参照すべき情報が何もない状態から判断基準を自ら作り、答えを導き出す）などの自己学習を行いながら答えを導き出します。そのような強力なセンサーと自己学習能力を有した人工知能がレッドチームとブルーチーム、そしてホワイトチームに分かれて訓練場で切磋琢磨し、やがて訓練生の中から最強の人工知能サイバー戦士が登場するでしょう。

図3：人工知能のためのサイバー訓練場



5. 人間は何をすべきか

「2045年問題」という言葉を耳にする機会が増えてきました。人工知能が人間を超え、様々な問題が生じるという予測ですが、特に恐ろしいのは人工知能の暴走でしょう。人間は長い年月をかけて自己学習を積み重ねてきました。ホモサピエンスの時代から数えると数十万年の時を経て環境に適合しつつゆっくりと進化してきましたが、それでも時には暴走してしまうこともあります。一方人間のそれと比べると人工知能の進化の歴史は始まったばかりに等しく、また進化のスピードが非常に速いため暴走を繰り返していくことを想定しておかなければなりません。冒頭に紹介したアルファ碁とイ・セドル九段との対局は全部で5局行われたのですが（アルファ碁の4勝1敗）、第4局の途中でアルファ碁は暴走し、自滅しています。イ・セドル九段が放った常識では考えられない奇抜な一手に人工知能が対応できずに暴走したのです。茂木 健一郎氏著の『人工知能に負けない脳　人間らしく働き続ける5つのスキル』の中では恐ろしい仮説も紹介されています。スウェーデンの哲学者で、オックスフォード大学教授のニック・ボストロム氏が『Superintelligence』という著書のなかで警鐘を鳴らしていますが、そのひとつが最近テレビでも紹介された「ペーパークリップを作る人工知能」の話です。ペーパークリップを作る人工知能はひたすらペーパークリップを作り続けますが、その過程で自分を改良して暴走し、世界中のあらゆる原料を手に入れながらペーパークリップを作り続けます。やがて人間も原料にされ、最後には無人の地球がペーパークリップだらけになるという結末を迎えます。

図4：人工知能の暴走　やがて人間もペーパークリップの原料にされてしまう

この話は多少大袈裟かもしれませんが、少なくとも人工知能は創造力を有した「暴走し得る存在」と認識しなければなりません。最強の人工知能サイバー戦士がひとたび暴走すれば原子力発電所や核燃料施設を攻撃する最強の人工知能サイバーテロリストに豹変するかもしれないのです。人工知能が暴走しないように倫理観を学習させるなどの抑制する仕組みの開発も考えられますが、予期せぬ何かのきっかけで暴走する危険性を完全に消し去ることは不可能でしょう。また人間を超えた人工知能が暴走してしまった場合、確実に止める術を人間が持てると言い切るのには無理がありそうです。暴走を抑制することも止めることもできなければ、そもそも人工知能に自分を改造・進化する能力を身につけさせてはならないのかもしれません。しかしながらリスクがある一方、人工知能が人間にもたらす恩恵も計り知れません。たとえ両刃の剣であったとしても人工知能がこれまで神を除けば人間だけの居場所と信じてきた創造世界への扉を開き、仲間入りしてきたのですからこの流れに逆らうことはできないでしょう。人工知能とうまく付き合いながら人間は更なる創造の高みを目指していくことが必要なのです。良き2045年を迎えるために。

参考文献

[1] 「人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの」（東京大学准教授 松尾豊氏著、株式会社 KADOKAWA）

[2] 「人工知能に負けない脳　人間らしく働き続ける 5 つのスキル」（茂木 健一郎氏著、日本実業出版社）

[3] 本因坊秀策囲碁記念館　http://honinbo.shusaku.in/index.html

[4] 産経ニュース 2014.12.5「人工知能が進化「人類滅ぼす」ホーキング博士、開発に警告」
http://www.sankei.com/life/news/141205/lif1412050013-n1.html

JNSA ワーキンググループ紹介

マーケティング部会

トレンドマイクロ株式会社　小屋　晋吾

■ 活動目的

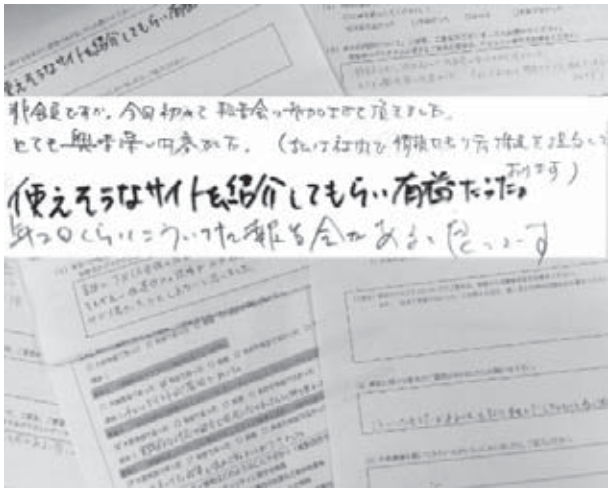
マーケテイング部会は、各部会、WGの成果物を対外アピールし、成果物の有効利用、ユーザーの課題解決を促進します。

JNSA自体の認知向上、会員数増加を目指します。

■ 設立背景

JNSAは設立15年以上の歴史を有し、数々のWGによる活動を通じて多くの成果を生み出しています。しかしながらその成果物が社会の中でどのように活用され、企業・個人のセキュリティ向上に寄与しているか、現状ではどのような情報やツールが必要とされているのかを追跡・把握することはほとんど行ってきませんでした。WG活動をより活発にし、社会が直面するセキュリティ課題の解決にこれ前以上の貢献をするため、マーケティング機能の実装が求められていました。

さらに昨年社会活動部会主導で実施された国内6か所でのセミナーアンケートにおいても、多くの参加者からJNSA成果物に対する賛辞の声が寄せられるとともに、セミナーにて初めて知った旨の声も多く寄せられており、JNSA及び成果物のさらなる露出をする必要性を認識しました。



■ 活動内容

（1）WG成果物の広報及びフィードバック

WG及び成果物に対し、その広報及び使用者・市場からのフィードバックを得るための活動をWGリーダー及びメンバーと協働し企画・実施する。

（2）JNSAの認知拡大活動

メディア、セミナー、WEB、SNS等各種方法を利用し、JNSAの認知度を向上させる。認知度向上は会員各社の活動にも貢献し、会員増加の要因ともなりうる。

（3）NPOマーケティングの勉強

企業内のマーケティング部門とは異なる立場で活動であり、様々な制約やメンバー間の利害の不一致が想定される。そのような環境でマーケティングを成功裏に実施するための勉強及び経験の場とする。

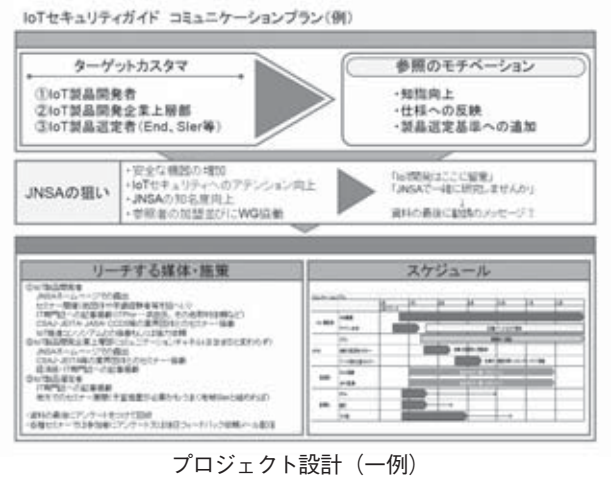
（4）マーケティング知識の習得

勉強会を通じ、マーケティング手法やトレンドを学ぶ。また自社の職務としてマーケティングを行っていない方でもJNSAでマーケティング活動に携わり、自身のキャリア形成を実施できる場を提供する。

■ 現在着手しているプロジェクト

（1）IoTセキュリティWG、理解度チェックWG、CISO支援WG、ソリューションガイドWG、SecBok人材スキルマップの普及支援プロジェクト
（2）マーケティングカレンダーの作成
（3）JNSAノベリティ制作
（4）勉強会企画

JNSA ワーキンググループ紹介



プロジェクト設計（一例）

■ 部会メンバー募集

マーケティング部会では上記活動に賛同し、興味のある方を募集しております。現在業務でマーケティング活動に携わっている方もそうでない方も、またマーケティング経験の全くない方でも、チームで活動を行っていきますので気軽にご参加ください。

そもそもマーケティングとは「顧客へ価値を提供し対価を得る活動のすべて」と定義されている場合もあり、ほとんどの企業活動がマーケティングであるといってもよいかもしれません。マーケティング部門の活動だけがマーケティングではありません。JNSAの場合では、誰が顧客で何を対価とするか、など考えていかなければならないことはたくさんありますが、一緒に考えながら活動していければと思います。

■ マーケティング部会メンバーリスト（社名昇順）

氏名	社名
部会長　小屋　晋吾	トレンドマイクロ株式会社
安納　陽子	アイマトリックス株式会社
菅野　泰彦	アスプスシステムインテグレーション株式会社
水村　明博	EMCジャパン株式会社
大塩　暁子	SCSK株式会社
根本　仁美	NRIセキュアテクノロジーズ株式会社
西尾　秀一	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
越野　由華	株式会社カスペルスキー
井上 宜子	サイエンスパーク株式会社
工藤　陽介	デジタルアーツ株式会社
渡辺　仙吉	日本アイ・ビー・エム株式会社
辻　秀典	ネットワンシステムズ株式会社
宮内　潤	株式会社日立システムズ
若月　正彦	株式会社日立システムズ
渡辺　直美	ユニアデックス株式会社
高木　経夫	ユニアデックス株式会社
持田　啓司	株式会社ラック
小梁　康志	リコージャパン株式会社

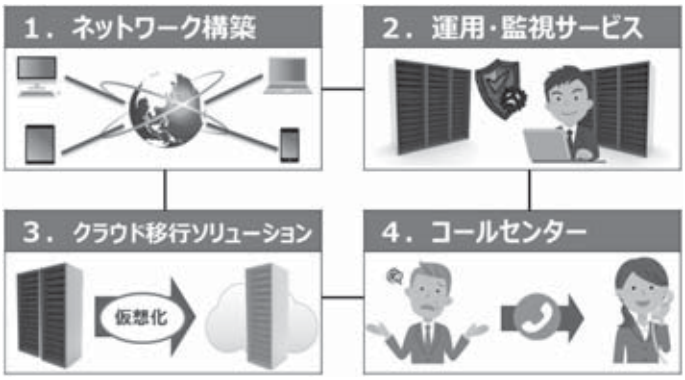
会員企業ご紹介㊷

アクモス株式会社
http://www.acmos.co.jp/

アクモスは、ハイレベルなノウハウを共有した専門サービス企業集団としてお客様のニーズの変化に柔軟に対応し、お客様の期待値を超える最適なプロフェッショナルサービス、ビジネスソリューションをご提供することで、皆様の安心と安全を支えます。

ネットワークソリューション事業
止められない IT インフラを安全確実に稼動させるためのトータルソリューション

サーバ環境の構築から大規模ネットワークの構築・保守、セキュリティ関連の診断まで安全・安心なネットワークの構築を実現いたします。
また、24時間365日対応の運用監視やヘルプデスク、コールセンター等にも対応いたします。



システムインテグレーション製品 【SYMPROBUS（シンプロバス）】シリーズ
アライアンス企業の優れた製品・ソリューションと当社の技術・アイディアを統合したシステムシリーズ。 今後もセキュリティに特化した製品・サービスを提供いたします。

● 秘密分散型マイナンバー管理システム「SYMPROBUS SecureNum」

➢ マイナンバーをセキュアに管理できるクラウドサービスです。
マイナンバーや本人確認資料等を解読不能な断片＝**無意味なデータ**に分散します。
一部のデータが漏洩しても全く問題はありません。
➢ 万一のセキュリティ侵害に対する万全の出口対策です。

● その他の「**SYMPROBUS**」シリーズ
➢ クラウドソリューション「**SYMPROBUS Cloud**」
➢ 消防通信指令システム「**SYMPROBUS F**シリーズ」
➢ GISソリューション「**SYMPROBUS GIS**」

お問い合わせ先：アクモス株式会社　セキュリティ営業部
〒101-0052　東京都千代田区神田小川町三丁目26−8　ユニゾ神田小川町三丁目ビル
TEL：03-5217-3155　Email：secu_ei@acmos.jp　URL：http://www.acmos.co.jp/

株式会社クエスト

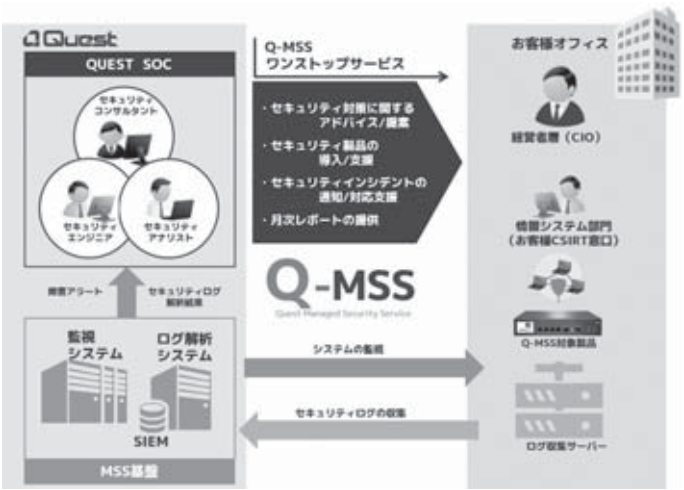
http://www.quest.co.jp/solution

セキュリティ製品選定から導入・運用・保守まで「Q-MSSサービス」で請負います！

クエストは、創業51年、従業員700名を超える独立系ITの上場企業です。Q-MSS（Quest Managed Security Service）は、セキュリティコンサルティングからシステムの構築、運用・保守までの全体を捉えたワンストップサービスを、運用で培ったプライベートSOCの豊富なノウハウを生かして、高品質かつ低価格なサービスを実現します。**セキュリティ対策においては、運用重視の提案が不可欠です！貴社製品群とQ-MSSとのコラボレーションが有利になりますので、皆様からのご連絡をお待ちしております！！**

Q-MSS サービスメニュー	製品名/サービス名	対策内容
次世代Firewall 製品導入サービス	Paloalto Networks「PAシリーズ」	Q-SOCのセキュリティポリシーを組み込んだ提案、設計、構築
次世代エンドポイント製品導入サービス	Paloalto Networks「Traps」	標的型攻撃対策（ゼロデイ対策）の導入
情報漏洩対策 製品導入サービス	デジタルアーツ「Final Code」	情報漏洩対策（ファイル暗号化）の導入
PSOC構築支援サービス	McAfee SIEM	プライベートSOC立ち上げ
Paloalto製品（PAシリーズ、Traps）運用/監視サービス	Q-SOC	セキュリティアラートの検知/通知 セキュリティポリシーチューニング ハードウェア監視（PAシリーズ）
セキュリティログ 監視/分析サービス		『SIEM』による相関分析を利用したセキュリティアラートの検知/通知、可視化

【Q-MSS事例】Paloalto「PAシリーズ」導入および運用/監視サービス」



標的型サイバー攻撃対策からお客様を守るため、Paloalto「 PAシリーズ」を導入し、端末の振る舞いから脅威を検知して防御。SOC基盤にSIEMを活用し、サイバー攻撃の予兆や、万が一攻撃者の侵入を許してしまった場合の影響範囲の特定、実害の発生を未然に防ぐ施策を立案。豊富なノウハウにより高品質でありながら低価格なサービスを実現しています。

paloalto networks.　next wave Palo Alto Networks | Gold Reseller

お問い合わせ先：株式会社クエスト　http://www.quest.co.jp/solution/

〒105-0023 東京都港区芝浦1-12-3 Daiwa芝浦ビル

本社担当：関　・米山　TEL:03-3453-1185

中部担当：畠中・川口　TEL:052-204-8227

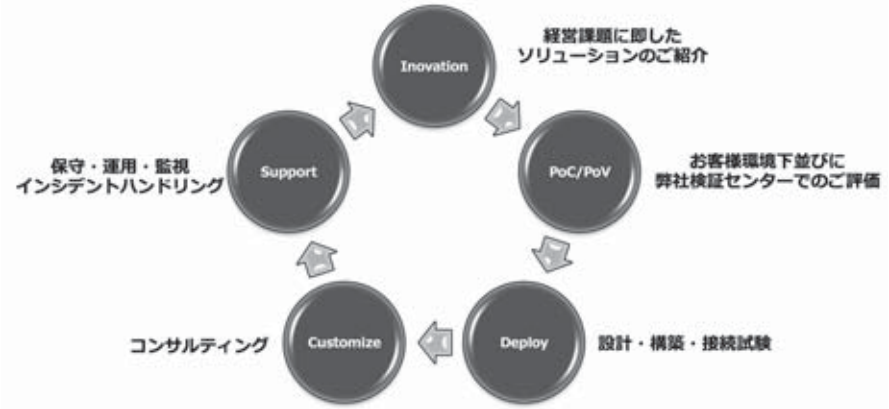
日商エレクトロニクス株式会社

http://www.nissho-ele.co.jp/focusarea/cyber_security/index.html

"Your Best Partner"
NISSHO ELECTRONICS

日商エレクトロニクスは、イノベーションへのチャレンジ精神をDNAとして、世界のさまざまな先端技術の実用化を図り、その技術を活用した先進的かつ最適なソリューションやサービスをお客様に提供してまいります。2020年を見据えサイバー攻撃の国内外の脅威動向に対して最新の各種ナレッジベースを組み合わせ、セキュリティ基盤の提供から、マネージドサービスまでお客様の経営課題の解決をお手伝いします。

それぞれのお客様の成功を見据えて導き出された弊社の事業モデル



DDoS対策ソリューション

Arbor Networks（Arbor）は、DDoS攻撃対策としてボリューム攻撃、アプリケーション攻撃の両方に対応しております。また突発的な攻撃キャンペーンや複雑化、高度化されるDDoS攻撃をリアルタイムに分析する研究機関を独自で保持し、DDoS対策市場No.1プレイヤーです。弊社はDDoS対策でマストなスキルセットであるBGPの使い手としてArborを最大限活かした形でお客様環境にビルドインし、継続的なサポートを提供します。

暗号化攻撃対策ソリューション

Blue Coat Systems（Blue Coat）は、昨今ますます増加している暗号化通信を利用した攻撃に有効なSSL可視化ソリューションとしてSSL Visibility Applianceを提供しております。弊社はSSL可視化でマストなスキルセットであるADCの使い手としてBlue Coatを最大限活かした形でお客様環境にビルドインし、継続的なサポートを提供します。

内部ネットワーク攻撃対策ソリューション

Vectra Networks（Vectra）は、次世代ファイアウォール、サンドボックス、次世代IPSなどを突破した攻撃を検出します。また内部ネットワークの脅威を自動で検出し、脅威リスクの度合いや隔離・復旧が必要なホストの優先順位を自動で特定します。弊社は内部ネットワーク脅威対策でマストなスキルセットであるDPIの使い手としてVectraを最大限活かした形でお客様環境にビルドインし、継続的なサポートを提供します。

ARBOR NETWORKS　BLUE COAT　VECTRA™ Security that thinks®

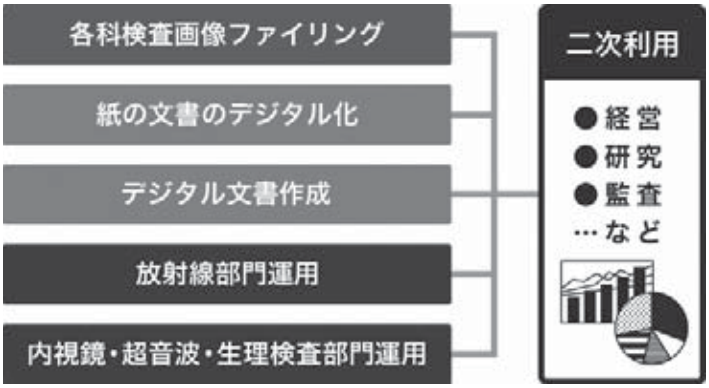
お問合せ	日商エレクトロニクス株式会社 ネットワーク＆セキュリティ事業本部 セキュリティ事業部 TEL: 03-6272-3122　e-mail: cyber_security@nissho-ele.co.jp

株式会社ファインデックス

http://findex.co.jp/

株式会社ファインデックスは、医療システムを中心とした自社パッケージソフトの開発・販売を行っています。主力製品の画像ファイリングシステム「Claio」を始めとする当社製品は全国の国立大学病院の7割以上で利用されており、院内に散在する画像や文書等の患者情報を統合管理することで診療の効率化はもちろん、研究や病院経営にも活用されています。また、医療以外の分野へも文書管理やデータ移行等業務を効率化するシステムを展開しています。

医療ソリューション



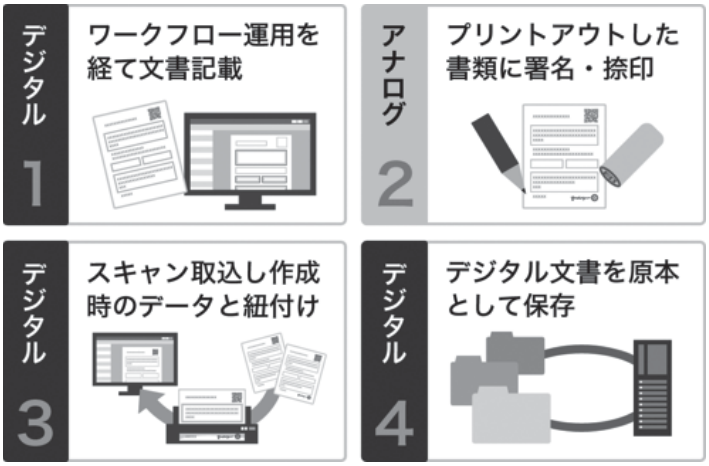
画像と文書の統合管理

FINDEX製品間のシームレスなデータ連携、電子カルテや医事システム、各種モダリティとの密な連携により、院内で発生する様々な画像や文書を効率的に管理し、日々の業務をサポートします。

統合データの二次利用

診療データは保存するだけの時代から、様々なシーンで活用する時代となっています。当社でも、研究や監査といった用途に逸早く対応しており、新たな利活用を実現すると共に、国の重要施策の１つでもある地域医療連携を見据えた診療データのさらなる活用にも取り組んでいます。

オフィスソリューション



文書管理

紙文書の削減と電子化により効率的な文書管理を実現します。システムで文書記載を行うことができる他、紙文書をスキャン取込しｅ文書法に則って長期保存することができます。ワークフロー運用にも対応しており、運用の流れに合わせて紙の文書とデジタル文書を紐付けて効率的に管理することができます。

データ移行サービス

独自技術により、データベースを介することなく画面上からデータを取得し、新システムへ移行します。移行にかかる時間や費用を抑えることができます。

ファインデックスは、医療を始めとする様々な業種において、自社システムを通じた業務効率化と情報システムのセキュリティ向上に取り組んでいきます。

お問い合わせ先：株式会社ファインデックス　http://findex.co.jp

東京本社　〒105-6133 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル33F　TEL：03-5408-3745

松山本社　〒790-0003 愛媛県松山市三番町 4-9-　TEL：089-947-3388

JNSA 会員企業のサービス・製品・イベント情報

■製品紹介■

○「Crossway/データブリッジ」

Crossway/データブリッジは、分離されたネットワーク間でデータを受け渡すツールです。ネットワークが分離された環境下でデータを受け渡す場合、通常USBメモリなどを利用するケースが多いですが、不正な情報持ち出しなどリスクが高くなります。本製品は、異なるネットワーク間の端末同士を接続している間のみデータの受け渡しが可能となります。そのため、情報の不正持ち出しを防止し、ファイル等の受け渡しを安全に行うことができます。

【製品情報詳細】
https://www.ntts.co.jp/products/crossway/databridge/

◆お問い合わせ先◆
ＮＴＴソフトウェア株式会社
ビジネスソリューション事業部
メール：databridge@cs.ntts.co.jp
TEL: 03-5782-7347

○DDoS攻撃対策①
「ARBOR Networks SP/TMS」

ARBOR Networks SP/TMSは、DDoS攻撃の脅威からの自社のネットワークの保護およびDDoS攻撃対策のサービス化をご検討されている企業様に最適なソリューションとなります。迅速なDDoS攻撃の検知とマルチテナントをサポートした高度なレポーティング機能を有し、国内外問わず多くの導入実績がございます。

【製品情報詳細】
http://www.nissho-ele.co.jp/product/arbor-peakflow_sp/index.html

◆お問い合わせ先◆
日商エレクトロニクス株式会社
ネットワーク&セキュリティ事業本部
セキュリティ事業部
TEL: 03-6272-5281
E-MAIL: arbor@nissho-ele.co.jp

○DDoS攻撃対策②
「ARBOR Networks APS」

ARBOR Networks APSは、DDoS攻撃の90%以上の割合を占める、数GbpsレベルのDDoS攻撃対策に最適なソリューションです。エンタープライズネットワークにインライン型で導入し、すべてのトラフィックを監視することで、キャリアサービス型、クラウド型のDDoS攻撃対策で、検知が困難なアプリケーション層攻撃にも対処が可能です。

【製品情報詳細】
http://www.nissho-ele.co.jp/product/arbor-pravailaps/index.html

◆お問い合わせ先◆
日商エレクトロニクス株式会社
ネットワーク&セキュリティ事業本部
セキュリティ事業部
TEL: 03-6272-5281
E-MAIL: arbor@nissho-ele.co.jp

○次世代ハードウェアセキュリティモジュール（HSM）
nShield XC

タレスは、アプリケーション・セキュリティのための次世代ハードウェアセキュリティモジュール（HSM）であるnShield XCを発表しました。nShield XCは、クラス最高である楕円曲線暗号（ECC）の更なる高速化、および比類のないアプリケーション保護機能であるCodeSafeを装備し、データおよびアプリケーションを保護するために、認定された暗号化方式を配備するという顧客の要求に応えます。

【製品情報詳細】
https://www.thales-esecurity.com/company/press/news/2016/february/thales-delivers-high-assurance-and-trust

◆お問い合わせ先◆
タレスジャパン株式会社
e-セキュリティ事業部
TEL: 03-6234-8100
E-MAIL: jpnsales@thales-esecurity.com

RSA CONFERENCE 2016 ASIA PACIFIC & JAPAN 出展レポート

JNSA海外市場開拓WGに所属する会員企業6社は、2016年7月20日（水）から22日（金）にかけてシンガポールで行われた「RSA CONFERENCE 2016 ASIA PACIFIC &JAPAN」に出展してきました。

メンバーで手分けして日本から持参したソリューションカタログ400部は3日間で全てなくなり、ブース来場者データも昨年度を大きく上回る数を入手することができました。

■名　称

RSA CONFERENCE 2016
ASIA PACIFIC & JAPAN

■会　場

Sands Grand Ballroom, Level 5
Sands Expo and Convention Center
Marina Bay Sands

■日　程

20 July (Wednesday): 10.30 – 17.30 hrs
21 July (Thursday): 10.45 – 17.15 hrs
22 July (Friday): 9.00 – 14.00 hrs

■概　要

- 登録者は6200人以上と記録を更新し、2015年から26%増となり、50件以上のトラックセッション、基調講演、チュートリアルがありました。またカンファレンスの展示会における出展者とスポンサーは100社以上に上り、2015年と比べて17%増加しましたが、残念ながら日本からの出展者はJNSA一社だけでした。

- JNSAでは3m×3mのShell Scheme Boothを出展、JNSA社会活動部会海外市場開拓WGの6社が出展しました。ブースでは「Japan Quality= Japan Security」をテーマに、日の丸ジャンパーを着用し、事

前に作成した出展企業の製品・ソリューションを掲載した総合カタログを配布した他、モニターで各社の紹介ビデオを常時上映、またJNSA及び各社を紹介するプレゼンテーションを1日1回行いました。今回は女性の割合が多く、日の丸ジャンパーを着た今回唯一のJapanブースということで目をとめて下さる方が多かった印象です。

- 2015年に較べると日本人の来場者が少なかった印象を受けましたが、その分ASIA PACIFIC地域の来場者が増えている印象でした。ブース来場者データは前回とデータの取り方が異なるため一概に比較はできませんが、前回の31件に較べると300件と大きく増えました。JNSAとしては海外企業の入会希望のお話を数社いただいた他、アライアンスのお話も複数いただき、海外企業の日本参入への強い意欲を感じました。

■ 出展企業（6 社）

株式会社網屋
株式会社インフォセック
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
株式会社神戸デジタルラボ
日本電気株式会社
株式会社ラック

JNSA海外市場開拓WGでは、RSAカンファレンスなどの海外展示会への出展や、メンバー企業のソリューションカタログの作成の他、海外進出マニュアルの作成なども今年度活動として進める予定です。JNSA会員企業の方でご興味ありましたら、ぜひWGへ御参加いただければと思います。

第6回日韓情報セキュリティシンポジウム開催報告

2016年7月28日（木）に東京都千代田区の秋葉原UDXにて「第6回日韓情報セキュリティシンポジウム」を韓国情報保護産業協会（略称KISIA）と共催で開催いたしました。

本シンポジウムは日韓のセキュリティ産業が連携しグローバル市場への参入を図ることを目的として、日韓の情報セキュリティの向上を目指す企業と人の交流を図り、両国の民間レベルでの緊密な交流を促すと共に、両国が協力して広くアジアの情報セキュリティの向上にも積極的に取り組むことを目指して2011年より日本と韓国とで交互に開催しており、本年が6回目の開催となります。

当日は総勢157名（内韓国側36名）の参加者を集め、日韓双方の立場から、またオリンピック・パラリンピックを含む情報セキュリティにおける近年の課題と両国の連携についてプレゼンテーションが行われました。

1. セミナー概要

名　称： 「第6回 日韓情報セキュリティシンポジウム」

日　時： 2016年7月28日（木）　10：00～18：15

場　所： 秋葉原UDX ギャラリーNEXT-1　（東京都千代田区外神田4-14-1）

主　催： 特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）
韓国情報保護産業協会（KISIA）

後　援： サイバーセキュリティ戦略本部、総務省、経済産業省、
独立行政法人情報処理推進機構（IPA）
一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター（JPCERT/CC）

参加者： 157名
（内訳）韓国：36名、日本：121名 (一般参加者：103名、関係者：13名、事務局：5名)

参加費： 無　料

対象者： 日韓連携及び情報セキュリティに興味をお持ちの方　全般

2. 第6回日韓情報セキュリティシンポジウム

2016年7月28日(木)　秋葉原UDXギャラリーネクスト

【開会挨拶】 10：00-10：25	
■会長挨拶	・NPO 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）　会長　田中 英彦氏 ・韓国情報保護産業協会（KISA）　会長 Dr. Hong, Ki-Yoong
■来賓挨拶	・総務省　情報流通行政局 情報流通振興課 情報セキュリティ対策室長　大森 一顕 氏 ・経済産業省 商務情報政策局 サイバーセキュリティ課　企画官　土屋 博英 氏
10：25-10：30	<<<<<　休憩　>>>>>
【第一部 】　オリンピックに向けた日韓の情報セキュリティ対策　10：30-12：00	
10:30-11:15	「東京 2020 大会に向けたサイバーセキュリティのチャレンジ」 舘 剛司氏　[公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 テクノロジーサービス局長]
11:15-12:00	「2018 年 平昌冬季オリンピックにおけるサイバーセキュリティの概要」 Prof. Youm, Heung-Youl [平昌冬季オリンピック大会組織委員会 情報保護専門委員会委員長]
12:00-13:00	<<<<<　ランチブレイク　>>>>>
【第二部 】日本と韓国におけるサイバーセキュリティ戦略　13：00-14：30	
13:00-13:45	「日本におけるサイバーセキュリティ戦略について」 村上 聡氏 [内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター　企画官]
13:45-14:30	「韓国における情報セキュリティ戦略」 Mr. Kim, Dong-Il [Deputy Director, MSIP]
14:30 -14:40	<<<<<　休憩　>>>>>
【第三部 】ＩｏＴセキュリティの展望　14：40-15：40	
14:40-15:10	「Prospects for IoT Security ～ 日本における IoT セキュリティの展望 ～」 松岡 正人氏[株式会社カスペルスキー/JNSA IoT セキュリティ WG リーダー]
15:10-15:40	「アジアでの IoT セキュリティの活動」 Dr.Lee, Hyang-Jin [Convergence Security Industry Team Manager, KISIA]
15:40-16:00	<<<<<　休憩　>>>>>
【第四部】情報セキュリティと産業振興のための日韓協力　16：00-17：00	
16:00-17:00	ディスカッション パネリスト 中尾 康二氏　[KDDI 株式会社/JNSA 副会長] 下村 正洋氏　[株式会社ディアイティ/JNSA 事務局長] 高橋 正和氏　[日本マイクロソフト株式会社/JNSA 副会長] Prof. Youm, Heung-Youl [平昌冬季オリンピック大会組織委員会情報保護専門委員会委員長] Dr.Hong, Ki-Yoong　[韓国情報保護産業協会（KISA）会長] Mr. Yoon, Doo-Shik　[JIRAN Security CEO/Auditor of KISIA]
【製品／サービス紹介】　17:00-18:00	
	＜韓国企業＞ FiveGT Co.,Ltd./JIRAN Security Co.,Ltd./MONITORAPP Co.,Ltd. ＜JNSA 企業＞ デジタルアーツ株式会社/株式会社ディアイティ/日商エレクトロニクス株式会社
【まとめ（最後に）】　18:00-18:15	
・中尾 康二氏　[KDDI 株式会社/JNSA 副会長] ・Prof.Youm, Heung-Youl [平昌冬季オリンピック大会組織委員会情報保護専門委員会委員長]	
【懇親会】　19:00　　於：銀座ライオン 秋葉原ラジオ会館　会費制	

2016 年度
「インターネット安全教室」のご案内

～パソコンや携帯電話で思わぬトラブルや犯罪にまきこまれないために～

誰でも手軽にインターネットに接続できるようになった今日、ウイルス感染、詐欺行為、プライバシー侵害など情報犯罪の被害にあう危険性がますます高くなってきています。いかに技術が進歩しても、ひとりひとりの意識の向上、モラルの徹底がなければ、これらの被害を防ぐことはできません。JNSAでは、経済産業省の委託事業として一般市民の情報セキュリティ知識向上のセミナー「インターネット安全教室」を、2003年度から実施してきました。2014年度より経済産業省補助金事業、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）委託事業として、引き続き「インターネット安全教室」を全国で開催して参ります。

【開催概要】

［主　　催］ 独立行政法人情報処理推進機構（IPA）、NPO日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）

［共　　催］ 全国各地のNPO・団体・自治体・学校など

［協　　力］ 全国読売防犯協力会

［後　　援］ サイバーセキュリティ戦略本部、警察庁、その他各開催地大学・新聞各社・県・県警等（以上予定）等

インターネット安全教室とは？

家庭や学校からインターネットにアクセスする人々を対象に、どうすればインターネットを安全快適に使うことができるか、被害にあったときにはどうすればいいかなど、情報セキュリティに関する基礎知識を学習できるセミナー「インターネット安全教室」を開催しております。

会場では参加者全員に、ドラマやドキュメンタリーを通じて最新の情報セキュリティに対する脅威が学べる「映像知る情報セキュリティ」の最新版ＤＶＤのほか、情報セキュリティ対策のポイントをわかりやすく解説する教材「インターネット安全教室」、子ども向けの「小中学生のためのインターネット安全教室」、家庭向けリーフレット「みんなで守って安全・安心8か条」「親子で守って安全・安心10か条」を配布し、情報セキュリティの向上にお役立ていただいております。

こんな方はぜひご連絡下さい

・一般市民向けの情報セキュリティセミナーを実施したいがコンテンツがない
・教材を製作するにもコストも手間もかかるのでなかなかできない
・セミナー運営のノウハウがない
・しかし、情報セキュリティは大切。普及活動を行わないといけないと思っている

とお考えの団体さまがいらっしゃいましたら、ぜひ「インターネット安全教室」の共同開催をご検討下さい。

最新の開催状況については、「インターネット安全教室」ホームページをご確認ください。
https://www.ipa.go.jp/security/keihatsu/net-anzen.html

SECURITY CONTEST (SECCON) 2016

SECCONとは、情報セキュリティをテーマに多様な競技を開催する情報セキュリティコンテストイベントです。実践的情報セキュリティ人材の発掘・ 育成、技術の実践の場の提供を目的として、2012年に始まりました。世界の情報セキュリティ分野で通用する実践的情報セキュリティ人材の発掘・育成を最終目標として、まずはICTに関わるすべての人材への情報セキュリティの考え方や知見を広めることでセキュリティ予備人材の裾野を広げ、さらにその中から世界に通用するセキュリティ人材を輩出し、よって日本の情報セキュリティレベルを世界トップレベルに引き上げることを目的として活動を行っています。

2016年1月に行われたSECCON 2015 決勝大会（国際大会）では、65カ国、累計3,343人の中から、各予選を勝ち進んだ全18チームが一同に会しその実力を競い合いました。また、決勝大会（学生大会）の優勝チームには、文部科学大臣賞が授与されました。

【開催概要】

［主　催］ SECCON実行委員会（特定非営利活動法人日本ネットワークセキュリティ協会）
［運　営］ 株式会社ナノ・オプトメディア
［後　援］

- 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部
- サイバーセキュリティ戦略本部
- 警察庁
- 総務省
- 公安調査庁
- 外務省
- 文部科学省
- 経済産業省
- 国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）
- 独立行政法人 情報処理推進機構（IPA）
- 一般財団法人 日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）
- 一般社団法人 日本経済団体連合会（経団連）
- 日本シーサート協議会

[CTF for ビギナーズとは]

CTF for ビギナーズは、コンピュータセキュリティ技術を競う競技であるCTF (Capture The Flag) の初心者を対象とした勉強会です。本勉強会では、CTFに必要な知識を学ぶ専門講義と実際に問題に挑戦してCTFを体験してもらう演習を行います。

[CTF for Girlsとは]

CTF for GIRLSは、情報セキュリティ技術に興味がある女性を対象に、気軽に技術的な質問や何気ない悩みを話しあうことが出来るコミュニティを作る事を目的に立ち上げられました。コミュニティ形成の一環として女性同士で情報セキュリティ技術を教え合うCTFワークショップや、その他女性向けCTFイベントの開催を行っています。

[協賛企業の募集]

SECCONの運営は民間企業等からの協賛金により行っています。SECCONでは年間を通じてスポンサーを募集しておりますので、お気軽にお問合せ下さい。（SECCON運営事務局: info2016@seccon.jp）
2016年度スポンサー企業はSECCONホームページ（http://2016.seccon.jp/）をご覧下さい。

[開催スケジュール] (2016.8.8現在)

■SECCON 2016

日　程	開催大会	会　場	内　容
2016年7月17日	SECCON 2016 九州大会	富士通(株)九州支社	IoT CTF(学生限定)
2016年8月26日	SECCON 2016 × CEDEC CHALLENGE ゲームクラッキング&チートチャレンジ SECCON 2016 横浜大会	パシフィコ横浜	CEDEC CHALLENGE(学生限定)
2016年10月2日	SECCON 2016 大阪大会	富士通(株) 関西システムラボラトリ	アツマレバイナリアン(学生限定)
2016年11月12日	SECCON 2016 福島大会	会津大学	サイバー甲子園(学生限定、18歳以下)
2016年12月10日-11日	SECCON 2016 オンライン予選	インターネット	CTF予選(日本語+英語)
2017年1月28日-29日	SECCON 2016 決勝大会	東京電機大学	学生・一般同時開催

■CTF for ビギナーズ

日　程	開催大会	会　場	内　容
2016年5月15日	CTF for ビギナーズ 2016 長野	(株)電算	Binary, Forensic(Network), Web, CTF
2016年6月26日	CTF for ビギナーズ 2016 香川	eとぴあ香川	
2016年7月16日	CTF for ビギナーズ 2016 博多	富士通九州支社	
2016年9月10日	CTF for ビギナーズ 2016 弘前	弘前大学	
2016年10月22日	CTF for ビギナーズ 2016 東京	(株)日立システムズ	
2016年11月26日	CTF for ビギナーズ 2016 金沢	金沢工業大学	

■CTF for GIRLS

日　程	開催大会	会　場	内　容
2016年6月24日	第5回ワークショップ	御茶ノ水ソラシティ	フォレンジック
2016年12月16日	第6回ワークショップ	調整中	暗号／ステガノグラフィー

■協力・連携イベント

日　程	協力・連携イベント	主　催
2016年5月23日	情報危機管理コンテスト	サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会
2016年7月23-24日	HITCON 2016	社団法人台湾駭客協会(HIT)
2016年8月19-20日	SANS NetWars Tournament 2016	NRIセキュアテクノロジーズ株式会社
2016年10月11-23日	MWS Cup 2016	情報処理学会コンピュータセキュリティ研究会MWS組織委員会

最新の開催状況については、「SECCON 2016」ホームページ(http://2016.seccon.jp/)をご確認ください。

事務局お知らせ
JNSA ANNOUNCE

主催セミナーのお知らせ

● IoTセキュリティWG主催セミナー
主　催: IoTセキュリティWG(JNSA)
日　程: 2016年10月26日(水)
会　場: 日本IBM　箱崎事業所セミナールーム

後援・協賛イベントのお知らせ

1. ID & IT Management Conference 2016
主　催: ノーサレンダー株式会社
日　程: 2016年9月16日(金)
会　場: ANAインターコンチネンタルホテル東京

2. SGR2016
主　催: SGR2016 実行委員会
日　程: 2016年9月23日(金)
会　場: 御茶ノ水ソラシティ・カンファレンスセンター

3. CobeBali 2016
主　催: ID-SIRTII
日　程: 2016年9月27日(火)～30日(金)
会　場: Padma Resort Bali

4. Security Days Fall 2016
主　催: 株式会社ナノオプト・メディア
日　程: 2016年10月3日(月)大阪
2016年10月6日(木)・7日(金)東京
会　場: (大阪)ナレッジキャピタルカンファレンスルーム
(東京)JPタワーホール&カンファレンス

5. Email Security Conference 2016
ID Management Conference 2016
主　催: 株式会社ナノオプト・メディア
日　程: 2016年10月4日(火)大阪　5日(水)東京
会　場: (大阪)ナレッジキャピタルカンファレンスルーム
(東京)JPタワーホール&カンファレンス

6. かごしまITフェスタ2016
主　催: かごしまITフェスタ実行委員会
日　程: 2016年11月6日(日)
会　場: 鹿児島市中央公民館

7. ITGI Japan カンファレンス2016
主　催: 日本ITガバナンス協会
日　程: 2016年11月14日(月)
会　場: 東京コンファレンスセンター品川

8. Internet Week 2016
会　場: ヒューリックホール&ヒューリックカンファレンス
主　催: 一般社団法人
日本ネットワークインフォメーションセンター
日　程: 2016年11月29日(火)～12月2日(金)

9. 「iコンピテンシディクショナリ」活用セミナー
主　催: 特定非営利法人スキル標準ユーザー協会
日　程: 2016年6月3日～10月3日(木)(15日間)
会　場: 福岡・名古屋・広島・仙台・大阪・宮崎
青森・秋田・鹿児島・松江・札幌・沖縄
新潟・高松・金沢

10. 第12回IPAひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール 2016
主　催: 独立行政法人情報処理推進機構
作品募集期間: 2016年4月1日(金)～11月30日(水)
会　場: 独立行政法人情報処理推進機構

JNSA部会・WG2016年度活動

1．社会活動部会

部会長:丸山司郎 氏／株式会社ベネッセインフォシェル
副部会長:唐沢勇輔 氏／ソースネクスト株式会社

日本社会のサイバーセキュリティへの適応を推進するためメディア等を通じた情報発信や社会貢献活動、政府機関や海外組織との連携など、JNSAの社会的活動を推進する。

具体的には、JNSAとしての情報発信の後押し、パブコメ対応や行政との意見交換会、ワークショップ、勉強会や記者懇談会などの普及啓発活動、委託事業などの社会貢献活動、講師派遣などの外部組織支援、国際・他団体連携などを進める。

また、東京オリンピック・パラリンピックに向けたセキュリティ推進活動として、JNSA会員企業メンバーを中心とする業界横断の「JNSA-CERC」を推進する。

【セキュリティ啓発WG】

(リーダー:山田英史 氏/株式会社ディアイティ)

「インターネット安全教室」の内容検討や運営サポート、広報活動の検討などを行う。

【海外市場開拓WG】

(リーダー:三上義弘 氏／株式会社インフォセック)

日本国内のセキュリティ事業者による海外市場開拓を加速すべく、All Japan体制でノウハウの共有とコスト・リスクの分散を図る。主な活動内容としては、3年程度を目安に下記を行っていく。

共通課題の抽出と解決指針策定

- 販路開拓／製品保守体制の整備／現地人材の採用／事業拠点整備に関わる活動
- 資金の獲得、現地の規制/届出など法務契約面の対応など
- 共同プロモーション活動の展開
- 海外展示会への出展、メディアへの露出
- 経済産業省など主管庁とのタイアップ
- 先行して海外市場に進出している企業の事例調査

＜予定成果物＞

- 海外進出企業の事例調査
- 海外進出マニュアル

【CISO支援WG】

(リーダー:河野省二 氏／株式会社ディアイティ)

CISOに求められる業務、そしてCISOがセキュリティ活動を指揮するために必要な情報とはどのようなものかを設定し、活動しやすい環境づくりを支援するためのアウトプットを行なう。また、必要な情報については、内部から得られるもの、外部から得るべきものなどを設定し、情報交換の場なども提供する。

NPO日本セキュリティ監査協会(JASA)、日本ISMSユーザグループ、日本CISO協会と連携して活動する。

＜予定成果物＞

- CISOガイドブック
- CISOのための情報交換会(の準備会)設置

【JNSA CERC】

(リーダー:高橋正和 氏／株式会社日本マイクロソフト)

会員間でのインシデント情報共有のための仕組みを充実させるとともに、流通するコンテンツの拡充を図る。

2．調査研究部会

部会長:前田典彦 氏／株式会社カスペルスキー

情報セキュリティにおける各種の調査および研究活動を行う。セキュリティ被害、情報セキュリティ市場などの統計分析事業、および、重要度や緊急度の高いテーマに関する脅威分析、対策研究を推進する。適切な時期、形式を用いて適宜情報公開を行い、調査研究における成果を広く社会に還元する。新規性や緊急性の高いテーマの検討が必要となる場合においては、勉強会、BoFなどを随時行うなどして、柔軟かつ迅速な対応を行う。

【セキュリティ被害調査WG】

(リーダー:大谷尚通 氏/株式会社NTTデータ)

個人情報漏えいインシデントの調査報告の活動の移管先を決定し、移管に向けた調整を行う。2015年データを用いて、移管先へレクチャー等を行う。

セキュリティ対策の投資対効果を定量的に計測するためのモデル検討、モデルを用いた机上実験、アンケートによる意見収集などを行う。

＜予定成果物＞

- 2014年個人情報漏えいインシデント調査報告書
- 2015年個人情報漏えいインシデント調査報告書

【セキュリティ市場調査WG】
（リーダー:木城武康 氏/株式会社日立システムズ）

国内で情報セキュリティに関するツール、サービス等の提供を事業として行っている事業者を対象として、推定市場規模データを算出し報告書として公開する。

＜予定成果物＞
- 2016年度情報セキュリティ市場調査報告書

【スマートフォン活用セキュリティポリシー ガイドライン策定WG】
（リーダー:栃沢直樹 氏／トレンドマイクロ株式会社）

スマートデバイスとそれに紐づく個人情報、機密情報をいかに保護するか、または公開されることを許容するのか、という観点から企業、個人それぞれの利用について指針を明らかにする。

【組織で働く人間が引き起こす不正・事故対応WG】
（リーダー:甘利康文 氏／セコム株式会社）

以下の3方向から「組織で働く人間が引き起こす不正・事故」に対する考察を深め、ソリューションの提言、提案を行うことを目的とする。

(1) 人の意識や組織文化
(2) 組織の行動が影響を受ける社会文化や規範
(3) 不正を防ぐシステム

＜予定成果物＞
- JNSA会員企業の「自社の従業員満足度向上に向けた施策」についての事例紹介。

【IoTセキュリティWG】
（リーダー:松岡正人 氏/株式会社カスペルスキー）

IoTに関連する製品や技術などの開発者、他のIoT関連の団体や組織との交流や情報交換を通して、会員の知識や理解を深める。またIoT製品の評価レポートなどの作成など。

＜予定成果物＞
- コンシューマ向けIoT開発者向けセキュリティガイド
- IoT製品の評価レポート

【脅威を持続的に研究するWG】
（リーダー:大森雅司 氏/株式会社日立システムズ）

(1) 変化する顧客ニーズの分析整理とビジネスアプローチの検討
(2) サイバー空間問題・安保外交政策・国内外市場動向の追跡調査
(3) 高度標的型攻撃設計対策ガイドに関する技術策の検討
(4)重要インフラ・制御系・社会インフラ等分野に係る問題整理整理

＜予定成果物＞

上記活動を通じて得られた知見や問題点等をホワイトペーパーに纏めて公開予定。

【マイナンバー対応情報セキュリティ検討WG】
（リーダー:萩原健太 氏/トレンドマイクロ株式会社）
（サブリーダー:松森健一 氏/デジタルアーツ株式会社）

最新のマイナンバー情報を入手し、現在ある成果物の整合性確認や新たなツール等の追加などを行う。

＜予定成果物＞
- 未定

【SaaSセキュリティWG】
（リーダー:長谷川長一 氏/株式会社ラック）

パブリッククラウド(SaaS)を実際にメンバーで使用し、そのセキュリティ（Microsoft,Google等）を検討する。

3. 標準化部会

部会長:中尾康二 氏/KDDI株式会社

昨年度に引き続き、業種・業界・分野等の標準化・ガイドライン化などを推進する。特に、JNSA目線のセキュリティベースラインの提供、情報セキュリティ対策ガイドラインの策定などを進める。また、国際標準/国際連携との親和性の高い案件については、国際標準への提案やコメントや日韓連携案件も視野に入れて議論を進める。

【アイデンティティ管理WG】
（リーダー:宮川晃一 氏/ 日本ビジネスシステムズ株式会社）

アイデンティティ管理の必要性の啓発および導入指針の提示などによる普及促進、関連他団体との連携により市場活性化を目的とする。

＜予定成果物＞
- ID管理チェックリスト

【国際化活動バックアップWG】
（リーダー:中尾康二 氏/KDDI株式会社）

国際標準化活動の情報共有を継続的に実施する。また、韓国KISIAとの共同フォーラムの開催を行い、韓国セキュリティベンダーグループとの連携を強化する。

＜予定成果物＞
- 日韓シンポジウム開催報告書

【電子署名WG】
（リーダー:宮崎一哉 氏
/三菱電機株式会社　情報技術総合研究所）

欧州電気通信標準化機構／電子署名基盤技術委員会（ETSI/TC ESI）会議などの国際標準化会議への参加を通じて、署名関連システムの実証プロジェクトなどを実施。国の委託事業「PDF長期署名プロファイルに関する国際標準化活動」も行うとともに、様々な関連技術などに関する勉強会も開催する。

＜予定成果物＞
- PDF署名(PAdES)プロファイル標準仕様最終ドラフト(DIS又はFDIS)
- 署名検証プロセスに関する標準仕様ドラフト
- 経済産業省委託事業向け報告書

【PKI相互運用技術WG】
（リーダー:松本泰 氏/セコム株式会社）

マイナンバー&IoT時代のPKIの情報共有。

＜予定成果物＞
- PKI Day 2017 イベントでの発表

【セキュアプログラミングWG】
（リーダー:塩田英二 氏/TIS株式会社）

セキュアなシステムの構築に必要な標準に関しての検討を行う。

＜予定成果物＞
- （仮）DARPA Cyber Grand Challenge関連レポート

4．教育部会

部会長:平山敏弘 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社

社会のニーズや時代の変化に適合したセキュリティ人材育成のため、必要とされる知識・技能等の検討を行い、実際に大学や専門学校等で評価実験を行う。

また、情報セキュリティ教育のコンテンツとして、情報セキュリティ教育のシラバスや講義資料および情報セキュリティスキル知識分野(SecBok)のさらなる改善を目指す。

さらに、講師データベースへの登録講師や講師予備軍の若手による講義・勉強会の開催等、教える場の提供を支援することにより、JNSA教育部会メンバーのスキル向上を目指す。

加えてセキュリティコンテストとは異なる新たな実践教育ツールの開発や検証に対しても検討を行う。

【講師スキルWG】
（リーダー:長谷川長一 氏/株式会社ラック）

情報セキュリティ教育の新しい手法(PBL、ケーススタディ、カード/ボードゲーム等を使った教育)の研究や実証実験を行っていく。活動は、U40部会と連携し、行っていく。

＜予定成果物＞
- 情報セキュリティ実践教育ツール(PBL、ケーススタディ、カード/ボードゲーム等)

【情報セキュリティ教育実証WG】
（リーダー:平山敏弘 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社）

情報セキュリティを教えることが出来る高度なスキルをもった人材を育成するために、実践での大学などでの講義を通じて、実践力とハイレベルスキルの習得を目的とする。

＜予定成果物＞
- 情報セキュリティ講義コンテンツ

【セキュ女WG】
（リーダー:北澤麻理子 氏/ドコモ・システムズ株式会社）
- 女性セキュリティエキスパートの交流場所を提供する（会社の枠を超えた連携を可能にする）
- セキュリティに関する専門スキルを持ちたい女性を応援する

5．会員交流部会

部会長:萩原健太 氏/トレンドマイクロ株式会社

情報セキュリティ業界の健全な発展のために会員向けサービスを充実させ、業界の発展に貢献する。

具体的には、勉強会や製品紹介サイトの運営、各種ガイドラインと製品との関連付け、情報交換・情報発信などを行う。

【セキュリティ理解度チェックWG】
（リーダー:萩原健太 氏/トレンドマイクロ株式会社）

「職員向けの教育の場を継続的に提供する」ことを目的とし、「理解度チェックの定期的な問題追加と見直し」、「理解度チェックの新たなセリングモデルの検討」を行う。

＜予定成果物＞
- 理解度チェックサイトの運営

【JNSAソリューションガイド活用WG】
（リーダー:秋山貴彦 氏/株式会社アズジェント）

ソリューションカイドの更なる活用を踏まえ、年間の活動を通じて会員企業自身のPRとその企業が有しているソリューションのPRを図る。

＜予定成果物＞
- JNSA内の他部会/WGが作成した成果物とソリューションガイドとの連携
- 関係諸団体が作成した各種ガイドラインとソリューションガイドの連携
- 関係諸団体が有しているWeb内でのバナー掲載促進

【経営課題検討WG】
（リーダー:菅野泰彦 氏/
アルプスシステムインテグレーション株式会社）

中小企業における経営課題を調査・検討し、JNSA会員の事業を応援する。

＜予定成果物＞
- ロジックツリーの作成
- ロジックツリーで作りこむ解決策から得られる副産物的な成果物、派生する調査検討内容や勉強会企画など

6．西日本支部

支部長:嶋倉文裕 氏/
富士通関西中部ネットテック株式会社

西日本に拠点を置くメンバー企業が中心となり、提携団体との協働の下、西日本のネットワーク社会におけるセキュリティレベルの維持・向上に資すると共に、産官共同して、IT利活用の実現・推進のため、西日本に集積する中小企業がリスクの変化に応じた機動的な対応を行うことができる機会づくりを支援する。

【経営者向け情報セキュリティ対策実践手引きWG】
（リーダー:河野愛 氏/
株式会社インターネットイニシアティブ）

経営者に情報セキュリティ対策の必要性を訴求し、対策に投資をしてもらうため、必要性の見える化施策を検討する。

＜予定成果物＞
- 経営者向け情報セキュリティ対策実践手引き（仮称）

【企画・運営WG】
（リーダー:小柴宏記 氏/
株式会社ケーケーシー情報システム）

JNSA 会員および西日本地域のセキュリティレベルの向上を目指し、一般向けの公開セミナーに加えて、昨年に引き続き近畿経済産業局との連携を強化し、組込系の繋がるモノづくり・セキュリティセミナーを経営者向けに開催する。また地域のセキュリティレベル向上のため、関西で活動する団体の合同セミナーを年2～3回実施すると共に、本部との合同セミナーも継続して積極的に開催していく。

【技術研究WG】
（リーダー:久保智夫 氏／株式会社サーバーワークス）

内部勉強会やJASA等との共同勉強会等も含めたものとして、研究(勉強)テーマを1回完結式ではなく継続して研鑽する。

7．U40部会

部会長:赤松孝彬 氏/株式会社ディアイティ

若年層を対象メンバーとして、JNSAの若返り、若年層の活動活発化、幅広い人脈形成を目的として活動を行う。

【for Rookies WG】（旧JNSAラボネットWG）
（リーダー:桑原和也 氏/デジタルアーツ株式会社）

「いまさら聞けない相談事」というキーワードをもとに企画・検討したテーマについて、ワークショップ（ハンズオン等）を開催。特に興味深いテーマについては、JNSA会員を対象としてルーキー（セキュリティを主業務にするようになってから3年以下）向けのワークショップを開催。

【勉強会企画検討WG】
（リーダー:越野由華 氏/株式会社カスペルスキー）

U40部会員の知識・スキル向上を目指し、勉強会を企画・開催する。勉強会は講師からの講義だけにとどまらず、グループディスカッションやライトニングトーク、ハンズオンを取り入れ、意見交換を活発化する。部会員以外のJNSA会員からも勉強会参加者を募り、部会員同士・JNSA会員・講師との人脈形成を行う。

8．情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）

代表:持田啓司 氏/株式会社ラック

今年度は、新たに会員会議を開催し、教育部会との連携も含めた今後の活動内容、会員条件の検討を行い、活動を継続する。

9．日本セキュリティオペレーション事業者協議会（ISOG-J）

代表:武智洋 氏/日本電気株式会社

セキュリティ診断士に関する検討として、診断士(Webアプリケーション)に必要な知識などの整理を継続する。また、一般向けセミナー、内部セミナーおよび勉強会等を適宜実施する。

＜予定成果物＞

- Webアプリケーション シラバス
- プラットフォーム診断のスキルマップ シラバス
- Internet Week 2016での公開向け資料 を予定

【セキュリティオペレーションガイドラインWG】

（リーダー:上野宣 氏/株式会社トライコーダ）

診断士資格の設立に向けて以下を行なう。

- 診断士（Webアプリケーション）資格の要項や必要な知識などの整理
- 資格試験としての体制についての検討
- 診断士（プラットフォーム）スキルマップの整備

【セキュリティオペレーション技術WG】

（リーダー:川口洋 氏/株式会社ラック）

最新の技術動向を調査し、最適なセキュリティオペレーション技術を探究し、技術者の交流を図る。セキュリティ技術の情報交換及びセミナーを各社持ち回りで実施予定。（1ヶ月～2ヶ月に1度）

【セキュリティオペレーション関連法調査WG】

数多くの関連法規が散在する中、利用組織および事業者が特に認識すべき項目を分かり易く整理します。（関連法規に変更などがあった場合にのみ活動のため、現在休止中）

【セキュリティオペレーション認知向上・普及啓発WG】

（リーダー:井上博文 氏/日本アイ・ビー・エム株式会社）

月次定例WGの他、一般向けセミナーを2回（10月・2月）開催予定。また、8月に集中検討（合宿）を実施予定。

【情報利用関連WG】

活動休止中

【セキュリティオペレーション連携WG】

（リーダー:武井滋紀 氏/NTTソフトウェア株式会社）

セキュリティの運用について各社共通の課題の議論、検討を行います。

10．産学情報セキュリティ人材育成検討会

座長:江崎浩 氏/東京大学大学院

昨年度に引き続き、情報セキュリティ業界での就労体験の機会提供を目的にJNSAインターンシップを実施する。4月23日(土)には学生と企業間の意見交換・交流のための交流会を東京大学で開催し、54名の学生が参加した。第2回は、9月20日(火)に開催する予定。

11．SECCON実行委員会

今年度も企業スポンサーを募り、「SECCON 2016」として全国的にセキュリティコンテストを実施予定。今年度は新たなカテゴリとして学校対抗の決勝大会も実施する。CTF初心者向けや女性限定のワークショップの開催にも注力する。

JNSA 役員一覧　2016 年 8 月現在

会　長	田中　英彦	情報セキュリティ大学院大学 学長
副会長	髙橋　正和	日本マイクロソフト株式会社
副会長	中尾　康二	KDDI株式会社

理　事（50音順）

荒川　賢一	エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ株式会社
遠藤　直樹	東芝ソリューション株式会社
大城　卓	新日鉄住金ソリューションズ株式会社
小椋　則樹	ユニアデックス株式会社
河内　清人	三菱電機株式会社情報技術総合研究所
後藤　和彦	株式会社大塚商会
小屋　晋吾	トレンドマイクロ株式会社
佐藤　憲一	株式会社OSK
下村　正洋	株式会社ディアイティ
田井　祥雅	マカフィー株式会社
土屋　茂樹	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
西本　逸郎	株式会社ラック
藤伊　芳樹	大日本印刷株式会社
藤川　春久	セコムトラストシステムズ株式会社
水村　明博	EMCジャパン株式会社
三膳　孝通	株式会社インターネットイニシアティブ

幹　事（50音順）

我妻　三佳	日本アイ・ビー・エム株式会社
安達　智雄	日本電気株式会社
伊藤　良孝	株式会社インターネットイニシアティブ
上原　政則	株式会社インフォセック
内田　憲宏	キヤノンITソリューションズ株式会社
北澤　麻理子	ドコモ・システムズ株式会社
木村　滋	シスコシステムズ合同会社
工藤　雄大	大日本印刷株式会社
後藤　忍	セコムトラストシステムズ株式会社
駒瀬　彰彦	株式会社アズジェント
小屋　晋吾	トレンドマイクロ株式会社
嶋倉　文裕	富士通関西中部ネットテック株式会社
下村　正洋	株式会社ディアイティ
鈴木　英樹	株式会社OSK
高木　経夫	ユニアデックス株式会社
髙橋　正和	日本マイクロソフト株式会社
辻　　秀典	ネットワンシステムズ株式会社
中尾　康二	KDDI株式会社
中間　俊英	株式会社ラック
能勢　健一朗	東芝ソリューション株式会社
蛭間　久季	株式会社アークン
二木　真明	アルテア・セキュリティ・コンサルティング
前田　典彦	株式会社カスペルスキー
本川　祐治	株式会社日立システムズ
森　　直彦	エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ株式会社
油井　秀人	富士通エフ・アイ・ピー株式会社
与儀　大輔	NRIセキュアテクノロジーズ株式会社

監　事

土井　充	公認会計士 土井充事務所

顧　問

井上　陽一	
今井　秀樹	東京大学 名誉教授
佐々木　良一	東京電機大学 教授
武藤　佳恭	慶應義塾大学 教授
前川　徹	サイバー大学 教授
森山　裕紀子	早稲田リーガルコモンズ法律事務所 弁護士
安田　浩	東京電機大学 教授
大和　敏彦	株式会社アイティアイ
吉田　眞	東京大学 名誉教授

事務局長

下村　正洋	株式会社ディアイティ

会員企業一覧　2016年9月5日現在　184社　50音順

【あ】

(株)アーク情報システム
(株)アークン
アイネット・システムズ(株)
(株)アイピーキューブ
アイマトリックス(株)
アイレット(株) New
アカマイ・テクノロジーズ合同会社
アクセンチュア(株) New
アクモス(株) New
(株)アズジェント
アドソル日進(株)
(株)アピリッツ
(株)網屋
アライドテレシス(株)
アルテア・セキュリティ・コンサルティング
(株)アルテミス
アルプスシステムインテグレーション(株)
EMCジャパン(株)
(株)イーセクター
イーロックジャパン(株)
イオンアイビス(株)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)
学校法人 岩崎学園
(株)インターネットイニシアティブ
インタセクト・コミュニケーションズ(株)
(株)インテック
(株)インテリジェントウェイブ
インフォサイエンス(株)
(株)インフォセック
ウェブルート(株)
ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン(株)
(株)AIR
SCSK(株)
(株)エス・シー・ラボ
SGシステム(株)
NRIセキュアテクノロジーズ(株)
NECソリューションイノベータ(株)
NECネクサソリューションズ(株)
エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジ(株)
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)
エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株)
NTTコムソリューションズ(株)
エヌ・ティ・ティ・ソフトウェア(株)
(株)エヌ・ティ・ティ・データ
(株)エヌ・ティ・ティ・データCCS
エヌ・ティ・ティ・データ先端技術(株)
エヌ・ティ・ティ・レゾナント(株)
(株)FFRI
(株)エルテス New
(株)OSK
(株)大塚商会

【か】

(株)ガイアックス New
(株)カスペルスキー
キヤノンITソリューションズ(株)
(株)クエスト New
グローバルセキュリティエキスパート(株)
クロストラスト(株)
(株)ケーケーシー情報システム
KDDI(株)
KPMGコンサルティング(株)
(株)神戸デジタル・ラボ
(株)コスモス・コーポレイション New
(株)コンシスト

【さ】

サイエンスパーク(株)
(株)サイバーエージェント
サイバーソリューション(株)
(株)サイバード
サイボウズ(株)
(株)サーバーワークス
G・O・G(株) New
(株)JMCリスクソリューションズ
ジェイズ・コミュニケーション(株)
JPCERTコーディネーションセンター
(株)シグマクシス
シスコシステムズ合同会社
システム・エンジニアリング・ハウス(株)
(株)信興テクノミスト
新日鉄住金ソリューションズ(株)
新日本有限責任監査法人
セイコーソリューションズ(株)
(株)セキュアソフト
SecureWorks Japan(株)
セキュリティ・エデュケーション・アライアンス・ジャパン
セコム(株)
セコムトラストシステムズ(株)
綜合警備保障(株)
ソースネクスト(株)
ソニー(株)
ソフォス(株)
ソフトバンク(株)
ソフトバンク・テクノロジー(株)
(株)ソリトンシステムズ
SOMPOリスケアマネジメント(株)

【た】
大興電子通信(株)
大日本印刷(株)
タレスジャパン(株)
TIS(株)
TISソリューションリンク(株) New
(株)ディアイティ
デジタルアーツ(株)
デロイト トーマツ リスクサービス(株)
(株)電通国際情報サービス
テンプスタッフ・テクノロジー(株)
東芝ソリューション(株)
有限責任監査法人トーマツ New
ドコモ・システムズ(株)
トレンドマイクロ(株)

【な】
日商エレクトロニクス(株) New
日本RA(株) New
日本アイ・ビー・エム(株)
日本アイ・ビー・エム　システムズ・エンジニアリング(株)
日本オラクル(株)
日本企画(株)
日本セーフネット(株)
日本電気(株)
日本電子計算(株)
日本電信電話(株)
日本ビジネスシステムズ(株)
日本プルーフポイント(株)
日本プロセス(株)
日本マイクロソフト(株)
日本ユニシス(株)
(株)ネクストジェン
ネットワンシステムズ(株)

【は】
パナソニック(株)
パロアルトネットワークス(株)
(株)日立システムズ
(株)日立ソリューションズ
飛天ジャパン(株)
(株)PFU
華為技術日本(株)
(株)ファインデックス New
(株)VSN New
富士ゼロックス(株)
富士ゼロックス情報システム(株)
富士通(株)
富士通エフ・アイ・ピー(株)
富士通関西中部ネットテック(株)
(株)富士通ソーシアルサイエンスラボラトリ
(株)ブロードバンドタワー
(株)ベネッセインフォシェル New
北陸通信ネットワーク(株) New

【ま】
マカフィー(株)
みずほ情報総研(株)
三井物産セキュアディレクション(株)
三菱スペース・ソフトウエア(株)
(株)三菱総合研究所
三菱総研DCS(株)
三菱電機(株)情報技術総合研究所
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)
三菱電機インフォメーションネットワーク(株)
(株)mediba New
(株)メトロ

【や】
(株)ユービーセキュア
ユニアデックス(株)

【ら】
(株)ラック
(有)ラング・エッジ
(株)リクルートテクノロジーズ New
リコージャパン(株)
(株)リンクトブレイン
(有)ロボック

【わ】
(株)ワイ・イー・シー
(株)ワイズ

【特別会員】
(ISC)2　Japan
一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会
ジャパン データ ストレージ フォーラム
一般社団法人　重要生活機器連携セキュリティ協議会
公益財団法人 ソフトピアジャパン
データベース・セキュリティ・コンソーシアム
特定非営利活動法人デジタル・フォレンジック研究会
電子商取引安全技術研究組合
東京情報大学
東京大学大学院 工学系研究科
長崎県立大学情報システム学部情報セキュリティ学科
一般社団法人 IIOT
一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会
一般社団法人 日本クラウドセキュリティアライアンス
一般社団法人 日本コンピュータシステム販売店協会
特定非営利活動法人日本システム監査人協会
一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会
特定非営利活動法人日本セキュリティ監査協会
一般財団法人 日本データ通信協会 タイムビジネス協議会

会員紹介（当コーナーでは、JNSA で活躍されている会員の方に、リレー方式で自己紹介をしていただきます。）

日本アイ・ビー・エム株式会社　板倉　景子

JNSA会員の皆さま、はじめまして。日本アイ・ビー・エム株式会社の板倉景子と申します。

この度は株式会社カスペルスキー越野様よりご紹介いただき、本稿を執筆させていただきます。

まず簡単に私の職歴とセキュリティへの関わりについてお話させていただきます。

社会人となり早10年が過ぎましたが、社会人人生のスタートはアプリケーション開発のSEでした。ちょうどJ-SOX法対応が盛んな頃で、内部統制文書化ツールの商品企画からアプリケーション開発、営業支援を担当し、若輩者ながら「リスクをいかに最小化するか」ということの難しさを肌身で感じる良い経験となりました。

2度の転職を経験しておりますが、1度目の転職後は金融機関のお客様を中心にITインフラ面の技術コンサルティング業務に携わっておりました。クラウド利用、ネットワーク暗号化、修正プログラム管理といったことから、直近では企業のグローバル化に伴うインフラ統合、特にID/アクセス管理基盤の統合をご支援させていただき国単位でのセキュリティへの考え方やスキルレベルの違いに試行錯誤しました。

2015年8月に現在のIBMへ転職後は、ITセキュリティという枠にとらわれず、セキュリティ全般のリスクアセスメントや経営戦略に即したセキュリティ戦略の策定、運用、インシデント対応のための組織設計といったことをしております。

最近の業務においては、技術的な仕事内容よりも経営寄りのお仕事が多いのですが、元来の新しいテクノロジ好きな性格もあり、技術力の低下をさけるべく社内のCTF（Capture The Flag:情報セキュリティの技術を競う競技）プログラムの運営支援等もさせていただいております。

JNSAの活動の中では「標準化部会内のID管理WG」、「U40部会」、「教育部会」に参加させていただいております。

「教育部会」の「情報セキュリティ教育実証WG」では、情報セキュリティの普及とスキル習得の地域格差是正を目的に岡山理科大学様向けに遠隔授業を実施しており、今年は私も講師を担当させていただきました。弊社以外にも、様々な企業のご担当者が週1回、半年にわたり持ち回りで各回の授業を担当し、情報セキュリティの基本知識について広く学習する履修2単位の講義として認定されております。

水曜日1限（9:00～）という学生にとっては少々タフな開催時間ではありますが、出席率もよく、学生の皆さんの素朴な疑問の数々やコンテンツ作成を通して私自身にも良い学びの機会となっています。

また、受講生の方々の中から次世代のセキュリティ業界を担ってくれる人材が出てきてくれれば嬉しいなと思うとともに、自分もまだまだ現役世代として精進しなければならないなと気持ちを新たにしました。

JNSAの活動の中で社外の皆さんと意見交換させていただき非常に刺激を受けております。今後も色々と顔を出していければと考えておりますので皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

会員紹介（当コーナーでは、JNSA で活躍されている会員の方に、リレー方式で自己紹介をしていただきます。）

日本ユニシス株式会社　尾花　悦正

JNSA会員のみなさま、はじめまして。日本ユニシス株式会社の尾花 悦正（おばなよしまさ）と申します。NECソリューションイノベータ株式会社の早川さんよりご紹介を受け、自己紹介をさせていただきます。

わたしは学部時代には哲学を専攻し、就職後にプログラマ、業務SE、インフラSEなどといったさまざまな立場でシステムに関わってきました。5年ほど前に縁あって奈良先端大の山口研究室で学ぶことができ、セキュリティエンジニアとしてのキャリアをスタートしました。現在の主な職務としては、日本ユニシスグループの社内向けプライベートSOC運用と米国Unisys社製セキュリティ製品のプリセールスを担当しています。JNSAとの関わりとしては、昨年度より主に関連団体であるISOG-JのWGに参加しています。

古代ギリシャの邸宅にはアンドロンと呼ばれる寝椅子が並んだ部屋があり、そこで開催される宴席のことをシュンポシオン（シンポジウムの語源）と呼んでいたそうです。プラトンの作品「饗宴」のタイトルは、このシュンポシオンの邦訳です。ISOG-JのWG6を中心に行われている合宿では、昼間に会議室で議論を行い、夜はお酒が入ってまさにこのシュンポシオンの世界になります。昼間の議論にも大いに学ばせていただいていますが、酒が入った後にセキュリティの専門家同士で交わされる話もとても刺激的なものです。興味のある方はぜひ参加されると得るものがあると思います。社外に高度なサービスを提供している方の多いISOG-Jの中ではまだまだ貢献できていないという状態ですが、世の中のセキュリティ向上に貢献できるように明日からガンバろうかなと精進しています。

わたしは情報セキュリティをゲームで例えるとエンドコンテンツのようなものだと考えています。普通のゲームでは、ラスボスなどを倒すとエンディングを迎えます。しかし、エンドコンテンツなどと呼ばれるやりこみ要素が仕込まれていて、いつまでもやることが尽きないゲームもあります。セキュリティの世界では、例えばWebアプリケーションのセキュリティが理解できても、バイナリ、カーネルモード、フォレンジック、暗号などいくらでも魅力的なダンジョンが残されています。そもそもシステムを構築できる、運用できる、正常なログが読めるといったことは前提で、それに加えてセキュアなシステム・運用を構築したり、異常なログを識別したりすることが求められる世界です。（通常はチームで活動するので、ちょっと大げさですかね。。。）

セキュリティのどういったところに魅力を感じるかは人により違うと思いますが、わたしはまだまだこのエンドコンテンツで飽きずに遊んでいられるかなと思っています。

最後にプライベートに関して少しだけ。最近は図像学（イコノグラフィー）や図像解釈学（イコノロジー）などに関心があり、休日は美術館などに行くこともあります。イコノロジーもセキュリティと同様に、歴史、宗教、思想、神話などについての広範囲な知識が必要とされる奥が深いものです。関連する領域に関心があれば、知識がつながっていくことが感じられるのでオススメです。

JNSA 年間活動（2016 年度）

4月	4月22日	PKI Day 2016「マイナンバー時代の PKI」
	4月23日	産学情報セキュリティ人材交流会〜インターンシップに向けて
	4月28日	第１回幹事会
5月	5月15日	CTF for ビギナーズ 2016 長野
	5月16日	2016 年理事会
6月	6月17日	JNSA 2015 年度活動報告会 / 2016 年度総会（ベルサール神田）
	6月24日	第５回 CTF for GIRLS
	6月26日	CTF for ビギナーズ 2016 香川
7月	7月16日	CTF for ビギナーズ 2016 博多
	7月17日	SECCON 2016 九州大会
	7月28日	第６回日韓情報セキュリティシンポジウム (秋葉原ＵＤＸ）
	7月29日	第２回幹事会
8月	8月26日	SECCON 2016 横浜大会
9月	9月10日	CTF for ビギナーズ 2016 弘前
	9月16日	第３回幹事会
	9月20日	産学情報セキュリティ人材交流会〜インターンシップに向けて
10月	10月2日	SECCON 2016 大阪大会
	10月22日	CTF for ビギナーズ 2016　東京
11月	11月12日	SECCON 2016 福島大会
	11月18日	第４回幹事会
	11月26日	CTF for ビギナーズ 2016　金沢
12月	12月10日〜11日	SECCON 2016 オンライン予選（日本語・英語）
	12月16日	第６回 CTF for GIRLS
1月	1月28日	SECCON 2015 決勝大会（intercollege）
	1月29日	SECCON 2015 決勝大会（international）
2月		
3月		

2016 年４月から 2017 年３月
「インターネット安全教室」開催

★ JNSA 年間スケジュールは、http://www.jnsa.org/aboutus/schedule.html に掲載しています。
★ JNSA 部会、WG の会合議事録は会員情報のページ http://www.jnsa.org/member/index.html に掲載しています。（JNSA 会員限定です）

JNSA について

■会員の特典

1. 各種部会、ワーキンググループへの参加
2. 会員勉強会への参加
3. (ISC)2・SANS 等教育の会員向け割引
4. 「JNSA ソリューションガイド」（製品・サービス紹介サイト）への情報登録
5. 理解度チェック・プレミアムの販売（代理店）
6. JNSA 会報の配布（年 2 回予定）
7. メーリングリスト及び Web での情報提供
8. 活動成果の配布・報告書元データの提供（会員限定）
9. イベント出展の際のパンフレット配布
10. 人的ネットワーク拡大の機会提供
11. 調査研究プロジェクトへの参画

お問い合せ

特定非営利活動法人
日本ネットワークセキュリティ協会　事務局
〒 105-0003 東京都港区西新橋 1-22-12 JC ビル
TEL：03-3519-6440
TEL：03-3519-6441
E-Mail：sec@jnsa.org
URL：http://www.jnsa.org/

西日本支部
〒 532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 5-14-10
サムティ新大阪フロントビル（株）ディアイティ内
TEL：　06-6886-5540

入会方法
　Web の入会申込フォームにて Web からお申し込み、または、書面の入会申込書を FAX・郵送にてお送り下さい。折り返し事務局より入会に関する御連絡をいたします。

JNSA Press vol.42

2016 年 9 月 9 日発行

発行所
特定非営利活動法人 日本ネットワークセキュリティ協会（JNSA）
E-Mail: sec@jnsa.org　　URL: http://www.jnsa.org/

印　刷
プリンテックス株式会社

NPO 日本ネットワークセキュリティ協会
Japan Network Security Association

〒105-0003 東京都港区西新橋1-22-12 JCビル 3F
TEL 03-3519-6440　FAX 03-3519-6441
E-mail: sec@jnsa.org　URL: http://www.jnsa.org/

西日本支部
〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島5-14-10 サムティ新大阪フロントビル（株）ディアイティ内
TEL 06-6886-5540